



地域に受け継がれてきた野菜を育て 食文化を守りたい！

吉谷俊郎さん(64歳)日高町赤崎



自身の住む地域に、何代にもわたって受け継がれてきた種(在来種)で野菜作りをしているのが吉谷俊郎さんです。吉谷さんの畑では、八代オクラやサトイモ、小野イモ、軟白ネギ、白ナスなどの在来種の野菜が作られています。特に白ナスは、3年前に「進美ナス」としてブランド化約30年前に八代区の方が赤崎区の親戚に種を分け、自家消費用に作られ続けてきた白ナスに、裏山の進美寺山から命名しました。「甘くて柔らかい」と評判の進美ナスは、今

では京阪神のミシュランガイド三ツ星レストランからも引き合いがあるそうです。吉谷さんは「進美ナスは、ステーキナスにすると最高においしい。輪切りにして、油で焼き、少量の水とだし汁で蒸す。口の中で溶けるから、歯がなくても食べられる」と笑います。「在来種の野菜は、その地域の気候や風土に合っているのです、とてもおいしく育つ。実験では但馬以外では育たなかった。外来野菜が多い中、地域固有の食文化を守ってみたい」と意気込みます。

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



絶景に子どもたちも興味津々

竹野海岸遊覧船スタート 船で巡る迫力満点のジオパーク

7月11日から8月23日まで、竹野海岸では、船から山陰海岸ジオパークを体験できる遊覧船(たけの観光協会)が就航しています。

淀の洞門やはさかり岩などを巡る西コースと、宇日流紋岩や包丁島などを巡る東コースの2コースがあり、約1時間かけて、ガイドが岩の成り立ちや見どころなどを説明。乗船客は、海の爽やかな風を感じながら、悠久の歴史に思いをはせていました。

ガイドの河原敏記さんは「陸と海からでは全く違う竹野海岸の景色を楽しんでほしい。自然の雄大さ、日本海誕生の物語を見ることができると笑顔で話していました。

集団疎開の思い出語る 西郷国民学校卒業生が出石を訪問

6月16・17日、太平洋戦争末期に出石に集団疎開していた神戸市灘区の西郷国民学校の卒業生、林久男さん、柳生米子さん、伊井喜美子さん、米倉澄子さんの4人が、出石町桐野の慈眼寺を訪れました。

当時寝起きしていた本堂で、住民約30人と交流した一行は、疎開中、食糧不足やシラミに悩まされたこと、演芸会を行ったり、川で水浴びをして楽しかったことなどを話し、昔を懐かしみました。

また、疎開の2日後、神戸市が空襲に遭ったことに触れ「集団疎開のお陰で生きてこられた」「今でも『出石』という活字を目にするたび、特別な思いになる」と出石への感謝の気持ちを語りました。



思い出話に花が咲く



「広報とよおか」は、環境に優しいベジタブルインキで印刷しています。